

生活環境経済学科のゼミナール

Department of Economics for Life and Social Environment SEMINAR

「知識の壁」を超えた 自由な発言力を培う

清水 真志 教授

私の指導しているゼミナールでは「現代の経済社会への多角的アプローチ」というテーマを掲げています。また、「現代の経済社会」に関係しているいかなるテーマについても「自由に拿起上げて発表し、所属学生全員で徹底的に議論する」ということをモットーにしています。誰でも自分の知らないテーマについては無口になってしまう場合があると思いますが、当ゼミナールではそうした「知識の壁」を超えて、間違いを恐れずに発言することを推奨しています。一度身につけた発言力は、きっと社会に出てからも強力な武器になるはずです。

議論を通して 学びを深めていく

3年 河野 智洋 さん

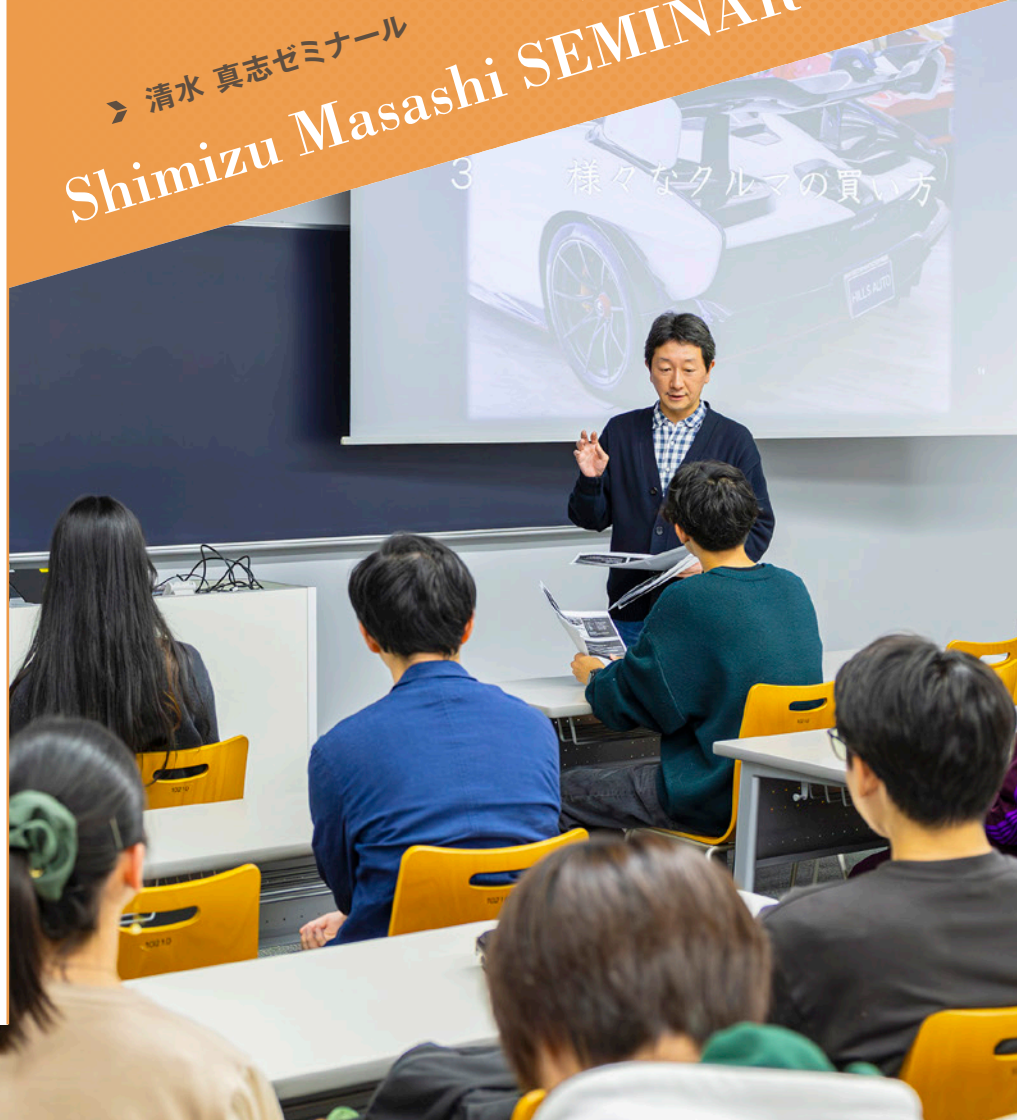
清水先生のゼミナールでは前期に課題図書を用いたディスカッション、後期に個人研究の発表・議論を行います。ディスカッションでは“酒と経済”をテーマにした書籍を用い、若者の酒離れやコロナ禍における酒の消費量などに焦点を当て、個人研究では「動物の殺処分問題」や「アニメ産業」など、各々が自由に設定したテーマで発表・議論しました。前期のディスカッションで間違いを恐れずに発言できるようになるため、後期の議論はより白熱します。このように、知識・関心が乏しいテーマであっても議論できることは、社会に出た後も大きな強みになります。発言することが当たり前の雰囲気は刺激があり、日々成長を感じられるゼミナールです。



現代の経済社会に対する多彩なテーマに対して、全員で徹底的に議論することをモットーに掲げるゼミナール。時に白熱する議論は、知識の壁を打ち破り、間違いを恐れぬ発言を推奨しているからこそ。



清水 真志ゼミナール Shimizu Masashi SEMINAR



1



Suzuki Naomi SEMINAR 鈴木 奈穂美ゼミナール

鈴木ゼミナールでは多様化する生活課題の改善には、当事者の参加を前提とすることが重要だと考えている。特に大切にしている“対話”では、積極的な活動を通して解決策の発見だけでなく主体性も身につく。



「対話」から生活課題の改善策を 自ら導き出せる人となるために

鈴木 奈穂美 教授

経済・社会と生活環境が大きく変化する中、生活課題が多様化し、課題の不確実化・複雑化が強まっています。課題の絶対的な解決策が既に知られていることも多く、現状の生活課題の改善には、当事者の参加を前提に対話を積み重ねることがとても重要です。鈴木ゼミナールでは、様々な生活課題を抱えている当事者やその支援者の声に耳を傾けながら、対話を通じた研究活動を積極的に行っています。学生同士の対話だけではなく、学生と学外の生活者との対話を重ねていくことで、学生が主体的に学ぶ力を身につけられると考えています。課題把握の視点とその改善につながる方法を自ら導き出せる人となるよう、研究活動を積極的に行っています。

共生社会実現の方法を 様々な視点から考えていく

4年 富澤 優那 さん

鈴木ゼミナールでは、共生社会実現をテーマとしたテキストの輪読、そのテーマを題材にしたゲーム形式のワークショップ・プログラムの開発、川崎市中原区で地域共創活動に取り組んでいる方々とのコラボゼミなどを行っています。これらの活動を通して「協調性」を身につけられるだけではなく、しっかりと相手の話に耳を傾ける「傾聴力」や、相手の意見や立場を尊重し一人ひとりの意見を無駄にしない「柔軟性」、効率的かつスムーズな会議を実現する「ファシリテーター」のスキルも向上します。様々な人と協力し合うグループワークが多いゼミナールであるため、意見を出しやすいような和気あいあいとした雰囲気を取り組んでいます。

2

生活環境経済学科のゼミナール

Department of Economics for Life and Social Environment SEMINAR